

城崎国際アートセンター

「平成 29 年度アーティスト・イン・レジデンス プログラム」選考結果について

平成 29 年度の公募では、応募総数 43 件（8 カ国）の中から、波及力、国際性、地域性、革新性、将来性の観点から選考を行い、20 件（5 カ国）を採択しました。

城崎国際アートセンターの最大の使命は、世界の文化に貢献できる優れた作品を輩出していくことにあります。来年度も、世界中から、優れた作品やプロジェクト、将来性のあるアーティストに集まっただけのことになりました。彼らに創作環境を提供することで、豊岡から世界に作品を発信していくこととなります。

一方で地域交流事業として、豊岡の皆さんに、すぐれた舞台芸術に触れていただく機会をいっそう増やしていきたいと考えています。特に、市内の子どもたちに良質のステージに触れてもらうために、親子で楽しめる作品を複数用意しました。

全体の多様性、バランスにも配慮しながら、プログラムを決定しました。以下に平成 29 年度のラインナップの特徴を簡単に記します。

●特徴 1：親子で楽しめる作品

イタリアの美術作家ダリオ・モレッティと日本の作曲家・野村 誠^{のむら まこと}、やぶ くみこ による「テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ」、世田谷シルクとスウェーデンの児童演劇専門のカンパニー Teater Sesam^{テアター セサム}によるコラボレーションは、共に国際共同製作で、親子で楽しめる作品を創作するプロジェクトです。将来を担っていく子ども達に、豊岡から良質な作品を届けていくことを期待しています。

●特徴 2：若手・中堅アーティストの滞在制作

神村 恵^{かみむら めぐみ}、北尾 亘^{きたお わたる}、きた まり、小尻健太^{こじりけんた}、村川拓也^{むらかわたくや}、根本しゅん平^{ねもと べい}といった 20～30 代の若手・中堅のアーティストが例年に比べて多くラインナップに加わりました。日常生活から離れた KIAC での滞在制作が、創作活動に集中的に向き合う機会となることで、アーティストとしてのより一層の深化を促すきっかけになることを期待しています。

●特徴 3：やなぎみわ・ステージトレーラープロジェクト

その特異な上演形態で話題となった、美術作家やなぎ みわによるステージトレーラープロジェクト「日輪の翼」^{にちりん}のり・クリエーションを受け入れます。ホールに舞台セットとなるトレーラーをイメージしたセットを組み、サーカス・楽隊・役者・ダンサーなど、さまざまなジャンルの出演者の個別の稽古は各スタジオを活用して展開するなど、KIAC の充実した創作環境を最大限に活用することで受入れを実現します。

●特徴 4：地域と舞台芸術を結ぶプロジェクト

豊岡・城崎のまちを舞台美術の視点でとらえ、街頭で演劇・ダンスのパフォーマンスを一般参加者と共に創作する、NPO 法人 S.A.I. の「セノグラフィック・フォーラム」は、地域と舞台芸術の関係性を改めて考える契機となることを期待しています。

●特徴 5：正統的な舞台芸術の分野以外のアーティスト

描^かく^く式^{しき}、田村友一郎^{たむらゆういちろう}といった、舞台芸術以外の芸術分野にベースを持つアーティストのパフォーマンス・プロジェクトも、当レジデンス・プログラムの可能性を広げることを期待して採択しています。

平田オリザ
城崎国際アートセンター芸術監督